

性的マイノリティについて、どんな世の中になってほしいと思いますか？

masyuさん 10年くらい前ですが、知り合いに「女性と付き合っているなんて（知り合いの）子どもに悪影響だ」と言われたことがあって、ショックでした。でも、ここ数年でだいぶ（性的マイノリティへの）意識は変わってきているんじゃないかな。悩んでいる子たちの心が少しでも軽くなるように、今後何かできることをしていきたいです。

maaさん 逆に「(maaさんのような存在と出会えること) 子どもに社会にはいろんな人がいるということを知ってもらえるから、いい機会になる」と言ってもらえたことがあって、とてもうれしかったです。“自分と違う人”ってだけで、恐怖に感じやすいそうなので、なかなか理解は難しいとは思いますが、「そういう人もいるんだ」と知っておいてほしいです。みんなそれぞれ趣味があるように、「みんな違う」くらいで思ってくれるといい。

masyuさん 十人十色じゃないけれど、みんなそれぞれ生きているので、認めるのは難しくても、見

「みんな違う」くらいで思ってくれるといい。みんなそれぞれ趣味があるように、

て見ぬふりでもいいから、過剰に反応しない世の中になってもらえると、うれしいです。“この人と一緒にいたい”ってだけなんです。そこは異性間の結婚と変わらないのかもしれない。こういう積み重ねがあって、これも普通になればいいなって思います。特別じゃない、がいいです。

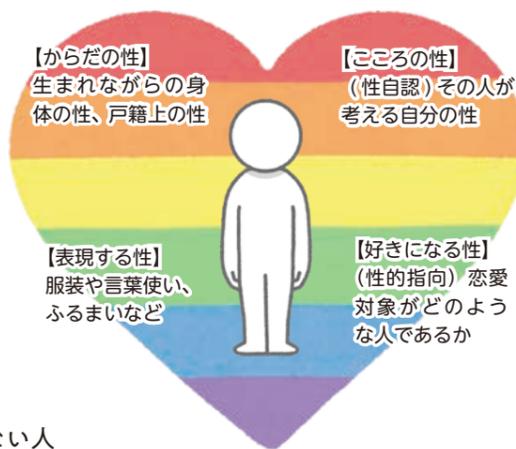


# LGBTQ

## 知っていますか？

### 性のあり方はグラデーション 男と女の2つだけじゃない

下のイラストのように、構成する要素の組み合わせによって、さまざまな性のあり方が存在します。大切なことは、性の多様性を知り、一人ひとりの性のあり方を尊重することです。



- L レズビアン**  
女性の同性愛者（好きになる対象：女性）
- G ゲイ**  
男性の同性愛者（好きになる対象：男性）
- B バイセクシュアル**  
両性愛者（好きになる対象：男性も女性も）
- T トランスジェンダー**  
「からだの性」と「こころの性」に不一致を感じる人
- Q クィア、クエスチョニング**  
自分の性のあり方について分からない、決めたくない人

※ LGBTQ 以外にも・・・他にもさまざまな性のあり方があります。[LGBTQ+]（+は包括的な意味）や [LGBTs] などと表現されることもあります。

## ちょっと意識を変えてみよう



### 「ひょっとしたら…」と考える

「LGBTQ+ 調査 2020」によると、日本のLGBTQ+の割合は **8.9%** です（出典：「電通ダイバーシティ・ラボ」）。およそ **11人に1人** いるということになります。

「自分の周りには、性的マイノリティの人はあまりいない、聞いたことがない」のではなく、「公表している人がいない、少ない」のではないのでしょうか。



### カミングアウトを受けた時は？

自分が性的マイノリティであると周りに打ち明けることを「カミングアウト」と言います。受け入れてもらえるか心配しながらも、あなたを信頼して、勇気をもって打ち明けてくれています。

性のあり方がさまざまであるように、状況も人それぞれです。決めつけることなく、相手の話を最後まで聞くようにしてください。また、カミングアウトされた人は、本人の許可なく第三者に話してしまうことは絶対にしないでください。

### 「アライ (ally)」になろう！

アライ (ally) とは、英語の「仲間」や「同盟」が語源で、「性的マイノリティのことを理解し、支援する人」のことを指します。

基本的な知識を身につけることや、言葉遣いに気を付けることなども、支援の一つです。

<言葉遣いのポイント (例)>

- ▶ 知り合いの子どもを「お嬢さん・息子さん」と呼ばずに、「お子さん」と呼ぶ
- ▶ 「男らしい・女らしい」とたえず、「〇〇さんらしい」と伝える など

### 正しい知識を知ろう！

何が差別になるのか、どんなことが相手を傷つけるのかなどを知ることが大切です。ジェンダー問題に関する講演会を開催します。



**【人権啓発イベント】**  
 <ジェンダー平等の新たな一歩>  
 パートナーシップ宣誓制度の事例から  
 日時：令和4年2月上旬  
 講師：藤女子大学 木脇 奈智子教授  
 ※詳しくは彦根市ホームページをご覧ください。  
**【HP 番号：18396】**

## 十人十色プロジェクト ~性の多様性を知ってもらおう~



ラジオ収録の様子

市では、幅広い年齢層の皆さんに、性的マイノリティの方々への理解をより深めてもらうため、制度の周知などの情報発信（左の写真）をはじめとした、さまざまな取り組みを聖泉大学人間学部の富川ゼミと連携して行っています。

※「十人十色プロジェクト」は、環びわこ大学・地域コンソーシアム（大学地域連携課題解決支援事業）の助成により実施しています。



3ページ掲載の「受領証カード」も、私たち聖泉大学の学生が協力して作りました！